

# KOSEN の窓

年間、博士研究員として働くことが多く、私も国際経験はどれも貴重であると考えて、海外での研究員生活を望みました。ヨーロッパとアメリカはすでによく知っていたので、アジア、特に日本で、

そうしている間に1年があっという間に過ぎ、少しずつですが慣れて話せるようになりました。日本での生活や研究が好きになり、予定していた帰国時期になりましたが、ISI-T、そして九州大学

時、本格的な教育・研究ができる高専教員を目指して有明高専の公募を受けて着任に至りました。有明高専に着任して、早いもので5年になります。今は、研究所や大学で働いていたときに比べて、日本について一番多く学ばせていただいています。

## グルノーブルから大牟田へ

有明高専創造  
工学科准教授  
ゴーチエ・ロヴィック

働くことを希望しました。そして、福岡市の九州先端科学技術研究所 (ISI-T) で1年間特別研究員として働くことになりました。

その後、福岡で結婚して、現在は子どももいます。来日から10年がたった

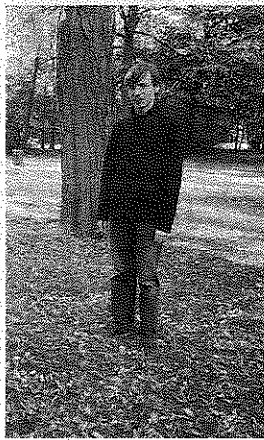
大牟田の街や人々も大好きで、とても楽しく過ごさせていただいています。

私はフランス出身で、平成24年4月に有明高専の准教授に着任しました。学生時代をフランスのグルノーブルで過ごしました。グルノーブルは大牟田市より少し人口が多く、山に囲まれたフランスでは比較的大きな町です。

博士号を取った後、母校で大学の教員になる予定でしたが、フランスでは大学教員になる前に数

別研究員として働くことになりました。

日本に来てすぐは日本語が全然理解できず、とても難しく感じました。



フランスの森にて



グルノーブルの山・風景

有明高専